

## Voice ☆☆☆

### 第4回をむかえた「はじめての雪山講習会」(通称「はつ雪」)をよろしく

教育遭対部長・はつ雪校長 中川和道 20181212

「はじめての雪山講習会」(通称「はつ雪」)は第4回目を迎え、現在進行中です。冬山セミナーなどで雪山ハイキングに親しんだ仲間の中には、もっと本格的な雪山に登ってみたいという新鮮な要求があります。これに応えよう、と教育遭対部のT本さんの発案で2016年に始まりました。「はじめての」とひらがなにこだわった中川と、ぐっと縮めて身近にと考えたT橋さんの命名で「はつ雪」の愛称が決まり、毎回、あっという間に定員(1回目20人、2回目15人、3回目15人、4回目10人)が埋まる状況です。

キャッチフレーズは、「ストックからピッケルへ、軽登山靴から冬靴へ、簡単アイゼンから本格的アイゼンへ」。雪山自体には運動靴でも超好条件なら行けますが、この講習会では、ハイキングを一線超えた「本格的な雪山登山を目指す」のです。「はじめての『本格的な』雪山」と言うといいでしょうか。目指す山は、当面、2000mの雪山とします。困難さの度合いが高まる八ヶ岳赤岳2899mなどは次の課題に回し、その一歩前の2000m級の登山技術を経験してもらいます。

一線を超えるもうひとつの点は、防御技術を経験してもらうことです。アイゼンピッケルの登下降やラッセル技術からスタートですが、登る技術は別の機会にまかせてでも、滑落停止技術、固定ロープをたどる技術(張るのはリーダー学校修了者)を体験してもらいます。毎回の人気は、何といても、雪洞。大日岳頂上で大々的に掘り、ろうそく1本であかあかと内部を照らして雪山生活の始まりです。聴覚障がいの方も参加され、幅広さも加わりました。

悩みのたねは、コーチが少ない。コーチに必要な水準は、滑落停止が教えられ、固定ロープ技術が教えられ、ラッセルやアイゼン歩行が教えられること。11月14日の開校式で理事長 園敏男さんから「アルパインや雪山をちゃんとやる山岳会が減っていて今は7つしかない。こういう講習会からまた雪山の会が増えてほしい」とのごあいさつ。そのとおり、コーチが得にくいのです。

古参の方々をお願いします。若者に技術を伝えに、どうぞ、「はじめての雪山講習会」にコーチとして顔を出してください。

みなさん、今年2019も、「はつ雪」講習会、よろしく願いいたします。